

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

|         |              |            |            |
|---------|--------------|------------|------------|
| 事業所番号   | 2190200077   |            |            |
| 法人名     | 合同会社 聖恵会     |            |            |
| 事業所名    | 恵みハウス        |            |            |
| 所在地     | 岐阜県関市大平台14-5 |            |            |
| 自己評価作成日 | 令和元年10月19日   | 評価結果市町村受理日 | 令和元年11月12日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2190200077-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2190200077-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a> |
|----------|---|

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

|       |                  |  |  |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 中部評価センター    |  |  |
| 所在地   | 岐阜県関市市平賀大知洞566-1 |  |  |
| 訪問調査日 | 令和元年11月 2日       |  |  |

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域密着型の介護施設として地域の皆様に支えられ、10年になります。いつの時も隣人愛の理念のもと地味な歩みですが今日まで来ることができました。4月のお花見には近所の6名ものボランティアの方が積極的に利用者様お一人お一人に関わって下さり、腕を組んだりピースしたりと利用者様の笑顔がいっぱいでした。毎年夏にはセンターとハウス合同で盆踊り大会をしました。踊りを忘れたと消極的な方もかわさき が流れると自然に手が動きます。10月初旬にはこ金田中学生が7名、3日間体験学習に来てくれて校歌を披露したり肩たたきをしたり、カラオケ、リース作りやグループホームの看板作りを手伝ってくれました。10/26(土)にはグループホームの運動会がありますし、11/21にはふれあいセンターに皆様手作りの作品参加で見学ツアーに行きます。今後益々地域に根差していきますよう努力していきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

訪問調査日、ホームと併設小規模多機能事業所合同の外支援助が行われ、評価員2名も同行した。行き先と目的は、市・西部ふれあいセンターで開催されている「ふれまち作品展」の見学と、大型商業施設内のフードコートでのおやつツアー。2事業所9名の利用者と6名の職員が参加した。作品展には、小金田中学校2年生と利用者が共同で創ったリサイクル作品やリースが展示され、利用者が丹精を込めた絵手紙15作品や周辺の“樹”を描いた10作品が会場を飾っていた。目の不自由な利用者は職員に促され、触れることが可能な作品に手をかざし、その出来ばえに感じ入っていた。フードコートでは職員が利用者のオーダーを取り、手際よくおやつを運んでくる。利用者の食欲に驚かされた。ラーメンとたこ焼き一人前をべろりと食べきった利用者もいる。昼食後2時間半である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |                       |   |

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |  |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
|                    |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |   |  |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | 私共の理念は「隣人愛」であり、職員はいつも利用者様がどうしてほしいのかを考慮し介護している。  | 基本理念である「隣人愛」と、その具体的な方向性を示す言葉が、ホーム内のあちこちに掲示してある。パンフレットの表紙にも、基本理念が記載されている。                           |  |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 近所の体の弱い方が毎年さぎ草を育てて鉢を持って来て下さったり、元民生さんがずっと絵手紙ボランティアに来て下さり暑中見舞いや年賀に使い地域交流に努めている。                                 | 民生委員が継続してボランティアに訪れ、利用者に絵手紙作りの指導をしている。見事な作品15点が、市のふれあいまつりの作品展に出展された。利用者が広告紙を使って作成したゴミ入れは、保育園に寄贈される。 |  |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 殆ど月1回外食やおやつツアーにお連れしている。自治会のお誘いで防災訓練にも毎年参加している。  |  |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 運営推進会議に出て下さる方たちは皆さま熱心にお話して下さり、聖恵会の菜園の知恵とか近所の事とか高齢者サービスについて市行政からの指示に従いサービス向上に活かしている。                           | 毎奇数月に開催される運営推進会議には、地域から多彩なメンバーが集まる。利用者・家族、市職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、大学の先生、自動車ディーラーの社員等々である。       | 参加メンバーによる「目標達成計画」の進捗評価の実施を期待したい。「目標達成計画」の評価は、運営推進会議の大きな目的の一つである。                             |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる   | 何度も市役所に行ったりして顔なじみになって普段から何気ない話の中から教えられることもあります。介護施設全般の問題が共通して居る事を知らされ協力関係を築いている。                              | 運営推進会議には、毎回市役所と地域包括支援センターから担当者の出席がある。運営推進会議によって市の職員との顔馴染みの関係が構築され、市役所を訪れたときにも気軽に声をかけることができる。       |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は勿論してはいけない事であり、ただ認知症で自分が守れない場合家族様に話し了解を取り記録を残している。また運営推進会議の場で皆様に報告している。緊急性 非代替性 一時的この約束事を守り拘束しない工夫を考えている。 | 外国籍の職員が大多数を占め、スピーチロックが利用者や家族からも指摘されている。職員本人に悪気はないのだが、声の大きさや語調、ストレートなものの言い等が、利用者に威圧感を与えている。         | ホーム運営の中心的存在である管理者と計画作成担当者は、対策を検討中であるが、日本語の微妙なニュアンスの使い分けや、「空気を読む能力」の国民性の相違等、大きな壁に阻まれている現状である。 |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                     | 虐待はあってはならないことであり、何が虐待であるかをも申し合わせている。利用者様の求めに必ずなんらかの答えをすることや何度も同じことを言われる方にも余裕を持って答えられるよう職員間で話し合い虐待防止に努めている。    |  |  |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 市行政の方から研修の機会をもらい、事務方のいずれかが参加できるように調整している。学んだことを実際現場で活用できるよう支援している。                                    |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約締結時にいつでも疑問に思う事があれば苦情相談に連絡をもらうよう話している。例えば1か月以上の入院等でよくなって退院となれば再契約で受けられることなど入院中も時々見舞って家族様に理解納得を図っている。 |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 運営推進会議の場で伺っているが日頃話をしたりして家族様や親族ご友人方と普段からお喋りの機会を設け懇意にして利用者家族様の意見を運営に反映させている。                            | 併設の小規模多機能事業所に、盲人協会の役員を務める利用者の利用が始まった。仕事で携帯電話を使用されることから、「自分も携帯電話を持ちたい」との利用者意見が出てきた。可否は、家族の許可を条件とした。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 代表者はナースでもあり、利用者様の健康状態にいつも気を配り、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。  | 併設の小規模多機能事業所と併せ、14名の外国籍職員がいる。比国籍のリーダーが仲介役となっているが、日本人職員との間で意思の疎通に欠けることがある。国民性の違いもあり、管理者の大きな悩みである。   |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 管理者である部長が公平になるよう、職員の希望をいつも聞いてシフト作りをして夜勤の数も現場が決めて部長にあらかじめ提出してもらい最終的に調整し、職場環境整備に努めている。                  |  |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 施設に届く研修の案内を職員にも紹介している。前向きな職員は自分の休みに研修に参加して自分の技術に自信をつけたり介護福祉士資格取得に意欲を燃やしている現状で職員を育てる配慮をしている。           |  |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市役所や社協の研修に事務職や施設長が参加して同業者との交流や学びをしている。  |  |                   |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |   |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人との関わり、家族様との関わりを中心に何気ない話の中から不安や要望を吸い取って当施設でできる事できない事をはっきり伝え、理解していただけるよう努めている。                                      |   |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 最初利用時に経済的な事、福祉用具は購入もレンタルも介護保険が使えない事当施設の保証金の額医療費薬代等細かく説明している。個々で違う部分については一緒に理解できるよう信頼関係作りに努めている。                      |   |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 在宅介護が限界でという方が多く事情を詳しく居宅のケアマネさんから伺い家族様からもうかがい、要介護3以上であれば特養も申し込める事、こちらとしては協力すること等話し支援に努めている。                           |   |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 色塗りや数合わせなど一緒に考える事で孤立を防ぎ洗濯物を皆様と一緒にたたんで職員と一緒に配っていく作業をして共に過ごし支え合う関係に努めている。  |   |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 家族様はハウスに預けられてもいつも気にしておられ、面会に来れない時は電話がある。衣替えの時などあふれるほど持ってこられる。ご本人と家族共に支えられるよう努力している。                                  |   |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | ご親族やご友人がたが面会に来られる。ただ中にはご親族がご本人にわからずお帰りになる事もあったり帰宅願望の強い利用者様に面会に来られたご友人が高齢になってもドライブしていると言われ、友人が帰られてから不穏に支援が難しいが努力している。 | 嫁いで別々に暮らしていた実の姉妹が、ホームで一つ屋根の下で生活することとなった。病気療養のために入院している5歳年上の姉の退院を、心待ちにしている利用者(妹)がいる。 |                   |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 数字合わせや色塗りなど皆さんで談笑しながらすごしている。洗濯たたみになると笑いながらたたんでいるが職員があとで直したりしながら利用者様間関係支援に努めている。                                      |   |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 入退院を繰り返した利用者様が高額なエアーマットを購入して下さり結局はなくなられたがハウスの必要な方に使ってほしいと献品されたり、ハウスのなくなられた方の奥様が防水シートやタオル類を沢山献品して下さい感謝しつつ関係を断ち切らないようにしている。 |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |   |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 今年6月にセンターからハウスに移籍された利用者様が難聴もあり孤立傾向にあるのでしばらく慣れるまで好きなカラオケをセンターの方で参加させてもらい本人の思いや意向を大切にしている。                                  | 訪問調査日の外出支援で、大型商業施設のフードコートで休憩をとった。職員がオーダーを聞いて回る。中華そば、チャーシュー麺、たこ焼き、ソフトクリーム、ノンアル・ビール等々、利用者の思いは様々であった。  |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 犬の好きな方がハウスには二人おられ、それぞれ家族様から贈られたのを大事にしている。他者様のも自分のも分かっておられないのか大事にだっこしている。利用者様のこれまでの暮らしの把握に努めている。                           |   |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 一人一人の帰宅願望の現れ方が違う事に職員もそれぞれ承知している。被害妄想でわめかれる方、どこまでも車いす自走で外まで行ってしまわれる方、枕をタオルで包んでバッグを持って事務室に行かれる方など職員がどう対応したら良いか承知している。       |   |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月の会議で各利用者様の問題点を検討している。重度の方もおられるが収集癖の方が2人おられ、安全第一に見守りつつ許容限度を決めて介護に当たって介護計画に反映している。  | 寝たきりの利用者2名、入院中の利用者1名と、高齢化・重度化が進行しており、意向の聞き取りが不可能な利用者が増えている。職員が推し量ったり、家族から情報を得たりして、介護計画に反映させようとしている。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 外国籍の職員が多く、言っていることはわかるが全てわかるわけではない。全員ではないが自主的に日本語の勉強に通っているスタッフもいて介護記録に成果が反映している。職員は気づきやアイデアがよく介護計画に活かしている。                 |   |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 夜間言葉の問題であるかもしれないが暴力のある利用者様がおられ、暴力まで至らないにはどうするか全体で考え、外国籍職員が夜勤の為口調が厳しくないか反省して夜勤勤務を女性に多くしたりサービスの多様化に取り組んでいる。                 |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 利用者様を花見や紅葉狩りにお連れする時は地域ボランティア6人くらいをお願いして話や車いす移動をお願いしている。また元民生さんが絵手紙を続いで指導下さり家族様に暑中見舞いや年賀にしたり地域のふれあいまつりに出品支援している。 |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | クリニックが併設されているので異常時は診てもらったり定期の血液検査などで問題があればドクターから大きい病院に紹介状を書いてもらい適切な医療支援に努めている。                                  | 母体が医療機関であり、施設長が看護師であることから医療的ケアに優れ、利用者・家族には安心感がある。総合病院や歯科医院とも協力関係が構築されている。   |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | ドクターの指示のもとクリニックのナースや訪問のナースや施設長(ナース)とで一人一人の利用者様の事を話し合い看護が続けられるように計画表を確認し適切な受診看護を受けられるよう支援している。                   |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された時は時々見舞い、家族様から情報を得ている。よくなったり落ち着いてこられて退院となった場合は必ず病院の相談員さんから連絡が入り、情報交換や相談に努めている。                              |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 重度化された方一人一人状況が違うので医療職と話しながら看取りなのかそれとも救急搬送するのか家族ドクター医療職とで情報共有してチームで支援に努めている。                                     | 入居時に重度化に対するホームの方針を説明し、利用者・家族から同意を得ている。利用者・家族の意向を尊重し、条件が合えばホームでの看取りを行う方針である。家族アンケートに、「本人も、一生ここで終わりたいと言っています。」との家族の声があった。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | AEDの常備してある所、ノロウイルスセットのある所の周知徹底、利用者様の予想される危険について申し合わせ急変事故発生時の備えをしている。  |   |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 市役所からも災害があると必ず気をつけてもらうようメールが入り、地域の防災訓練には毎年利用者様をお連れして参加している。消防署立会の施設の訓練も年に2回11月と3月に実施している。                       | 昨秋の台風に伴う豪雨禍により、停電という苦い経験をした。その反省に立って、大型発電機が設置された。毎年2回、併設の小規模多機能事業所と合同で防災訓練を実施している。                                      |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 利用者様方共通の話題、ニュース、懐メロ等で皆様の雰囲気や和やかにできるように職員は絶えず人格尊重やプライバシー確保に努めている。                                | 外国籍の職員の中には、日本流の“敬老”の精神が明確に理解できていない職員もいる。管理者や計画作成担当者、比国籍のリーダー職員が日々指導にあたっている。                       |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 家族様と時々連絡をとりあって様子をお知らせしたり、ご本人の好きな物を作って下さり、漬物に付けてお出して利用者様の希望自己決定を支援している。                          |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 胃瘻の方には食事時を外して1日に1回はリクライニング車いすでリビングにお連れして皆さんと共に過ごしてもらっている。ある方はソファ、ある方は畳の所というように居場所を希望に沿い支援している。  |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 男性職員は男性利用者の髭剃り、女性職員は女性利用者の髪をとかしたりアクセサリをつけたりしている。アクセサリは誕生プレゼントかスタッフが家から持ってきたものなどある。一緒に楽しみ支援している。 |   |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 副食は外注でとっているが朝食は施設の菜園でとれたナスや近所の個人的なもらいものを利用者様に見せながらおしゃべりしながら夜勤者が食事を楽しむことができるよう支援している。            | ホームでの食事が配食弁当であることから、食事が単調になることを防ぐために、利用者の意向を確認して外食に出かけている。市・ふれあいまつり見学の際にも、フードコートでのおやつタイムが企画されている。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 毎日の栄養バランスを職員は気遣い、熱中症の時期には職員がスポーツ飲料を飲ませ一日の水分確保に努めている。  |   |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | ご家族の理解をいただいて月に2回は訪問の歯科医に口腔ケアに来てもらっている。寝たきりの方には特にヘルパーでは完全にできないのでお願いしている。職員も日々の口腔ケアに努めている。        |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | どなたでもトイレでの排泄を習慣として来られた事を重視して夜間でもポータブルトイレで介助しているかたもあり、尿便意が不明の方には夜間はオムツ使用 少しでも立てる方は日中はトイレ誘導して自立に向けた支援をしている。    | 極力おむつ使用を減らし、トイレで排泄できるように支援している。居室にポータブルトイレを持ち込み、夜間だけ利用する利用者もいる。寝たきりの利用者2名には、小まめなおむつ交換が行われている。                             |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | ナースとヘルパーとで排便記録共有して頑固な便秘の方には朝方の頓服使用を日勤と申し合わせてトイレにお連れしている。頓服の効き具合を話し合ったり便秘の予防対応に努めている。                         |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 朝ぶろが好きの方には夜勤と早番で協力して3名の方を入れている。なるべく希望に沿いたいと職員も願いつつ支援している。  | 一日おき、週に3回の入浴を基本として支援している。利用者の好みやこれまでの習慣を重視し、朝風呂や長風呂、好みの湯温等に対応している。  |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 夜間になると不穏になって寝られない方は職員間で申し合わせて食堂でテレビをつけたり懐メロを流したりで遅番や夜勤で申し合わせているがすぐには入眠されずミーティングでの課題にしながら安眠の支援に努めている。         |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 血圧や前立腺、便秘の薬とわかりやすく職員間で声をかけあい服薬前の3回確認を施設長自ら現場で指導している。また薬をポケットに入れられないよう薬の目的副作用正しい服薬支援に努めている。                   |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 帰宅願望が常にあり、すぐに周りのものを枕カバーに入れて出口を捜されるが洗濯物たたみをお願いするとスタッフとおちついてされる。利用者様にも役割分担をお願いして支援している。                        |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 年に2回は近所のボランティアさん方に車いすや見守り等お願いして花見や紅葉狩りや外食にお連れしている。それ以外に皆さんと体験学習の中学生と作ったリース等作品を地域の発表の場に出品し皆様と外出見学したり支援に努めている。 | 併設の小規模多機能事業所と合同で活動することが多く、外出支援についても同様である。秋は外出機会が多く、この1週間に、「市内グループホーム運動会」、「カラオケ大会」、「ふれあいまつり・作品展見学」、「フードコート・おやつツアー」等が実施された。 |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 現金とケータイは遠慮していただいているがどうしても持っていないと落ち着かないと言う方がおられればご家族と相談してお持ちいただくが現在はそういう方はおられない。                                    |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 毎年絵手紙ボランティアさんがご家族への暑中見舞い、秋の地域の作品展に出品、それから年賀状を皆様と作成してご家族が喜ばれている。職員一同で支援している。  |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 皆様が集まる食堂は花が多い。面会者やご家族が送って来られた誕生祝の花など日中は食堂で皆様過ごされるのでそこに飾っている。壁には皆様の写真を掲げたり盆踊り時には皆様で作った風船の提灯を飾ったり居心地よく過ごせる配慮工夫をしている。 | 「How are you? /ごきげんよう」等の、英文字表記と日本語表記の対照表がリビングに掲示してある。利用者、外国籍職員、日本人職員、来訪者等が、良好なコミュニケーションを取ることができるようにとの配慮である。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | いつも車いすの方に昼食後くつろいでいただく為にテレビの前のソファにおつれしたり、寝たきりの方をリクライニング車いすに移して毎日2時間近く皆様の雰囲気の中で過ごしてもらっている。                           |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 娘様や孫様の写真、孫様の折り紙やお絵描きなど面会時に置いていかれた作品を壁に貼ると利用者様は寝転んで眺めておられる。壁いっぱい貼ってあるがご自分にとっては大切な物と職員は心得ている。                        | ボランティアの民生委員の指導で作成した絵手紙が、居室の壁に飾られている。2名の利用者が寝たきりの状態であるが、居室は綺麗に整理整頓され、気分が良い時にはリビングで過ごすこともある。                  |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 難聴、認知症特有の収集癖、帰宅願望が強く絶えず出口をさがしておられる方など安全を考えてあまり手の届くところに物を置かない工夫、とにかく危険のないようシンプルにして安全自立した生活の工夫をしている。                 |   |                   |